

# 占星術と天文学

プトレマイオスからニュートンまで

# 個人的な動機

伊勢田哲治による「疑似科学と科学の哲学」(2003, 名大出版会)の 2.1 節  
占星術と天文学の関りについての事例が興味深い

- プトレマイオス
- コペルニクス
- ケプラー
- ニュートン

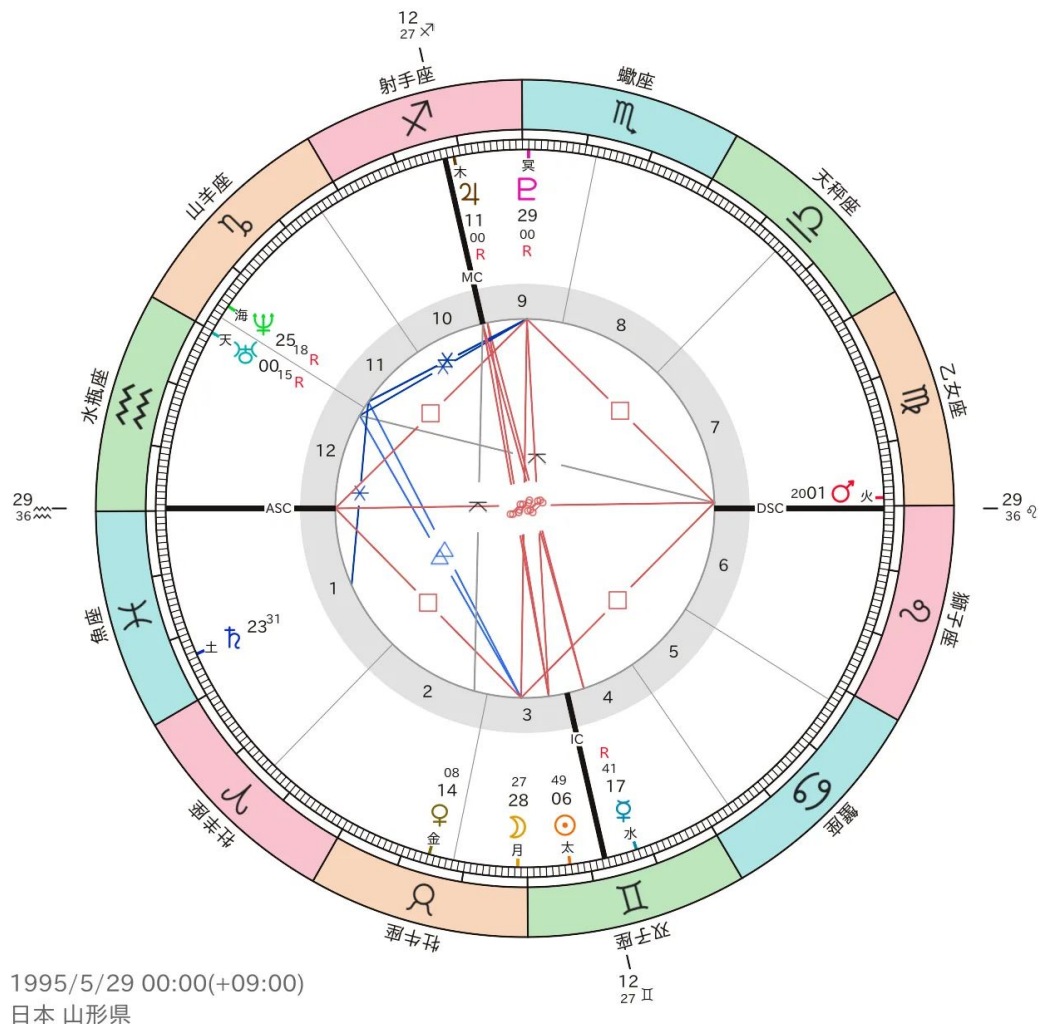
# 占星術

私のホロスコープ

星読みテラスにて作成した

惑星の位置関係で運勢が決まる

⇒天文学の動機付け



# プトレマイオス以前

- 紀元前7世紀のバビロニア 恒星と惑星の区別
- 紀元前4世紀 最初のホロスコープ
- 紀元前2世紀の古代ギリシャ プラトンやアリストテレスによる天動説
- 紀元前2世紀の古代ギリシャ ヒッパルコス
- 紀元前後 占星術の基礎理論の成立

# プトレマイオス(紀元2世紀のローマ)

## 『アルマゲスト』

ヒッパルコスの理論 と「エカント」に基づく惑星の動きの予測

以後千年にわたり天文学の基礎理論として使われ続ける

## 『テトラビブロス』

占星術の古典

占星術は天文学の応用科学と位置づけていた



# 中世ヨーロッパ

『テトラビブロス』『アルマゲスト』がイスラーム世界から逆輸入される

## 影響

- キリスト教 基本は自由意志論だが、宿命論を部分的に取り入れる
- 神秘主義（新プラトン主義・ピタゴラス主義・ヘルメス主義）

特にヘルメス主義は占星術や錬金術を含むヘルメスの科学をもたらした

# コペルニクス

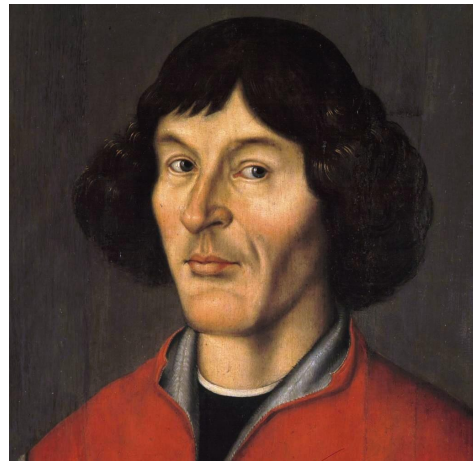
『天球の回転について』(1543) で地動説を唱える

太陽を宇宙の中心にすれば「エカント」が不要になることに気づいた

一方で理論の単純化、予測の精度の改善には至らず

ヘルメス主義の文献を太陽を中心として据える根拠として挙げている

占星術者だったかどうかは不明



# ケプラー

コペルニクスの地動説を改良し、予測の精度を飛躍的に向上させた  
惑星の軌道は楕円軌道であることを示した

占星術師であったが「天文学は娘の占星術の娼婦業で養われている」と述べる

新プラトン主義・ピタゴラス主義などの神秘主義に傾倒

正多面体や音楽的ハーモニーと惑星軌道の関連を分析していた

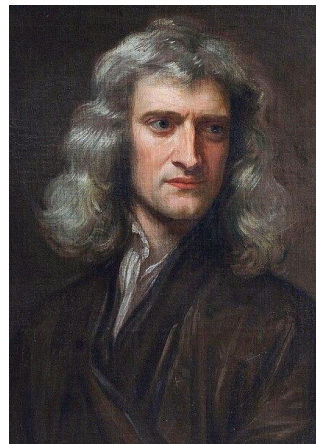




# ニュートン

万有引力の発見・ケプラーの三法則の導出

ヘルメス的科学的錬金術の実践家であった



17世紀の科学者の間ではデカルトの「機械論的世界観」が主流であった

特にライプニッツに「万有引力」を激しく批判される

錬金術師であったことと「万有引力」の発見を結び付ける解釈も(賛否両論有)